

平成30年2月3日㈯に千葉県知的障害者福祉協会が例年主催する、第14回自立支援セミナー「これからの社会、これからの障害者支援」が千葉市民会館で800名の参加をいたしました。

始めに、主催者の千葉県知的障害者福祉協会会長の里見吉英氏より障害福祉制度に関する説明がありました。平成30年度の報酬改定について、今回は医療・介護・福祉の3つの報酬改定が同時に行われ、予算の減額が予想されたが、3分野ともに増額となりました。また、廃止の流れであつた食事提供体制加算も3年間継続されることとなつたことと、グループホームについては重度対応型の20名のホームが新たに認められたことが述べされました。人材確保については重要な課題であり、協会主催の就職説明会の実施もう努めていきたいと話されました。



「これからの障害者支援」 人口減少時代の福祉の役割

講師 每日新聞論説委員 野沢 和弘 氏

障害福祉サービスの課題として、まず営利目的の企業・NPOの参入により、経済界、財務省からの社会福祉法人批判が近年非常に強く、それは大手企業も苦戦しており、不祥事やリストラですごい数の人が辞めていくこと、国内消費がなかなか伸びないことが原因と考えられております。障害者福祉の予算、財源は、もともと少なく企業からは見向きもされない、選択肢の幅がないからであるため、今後は支援の成果を報酬にリンクさせる研究をして考えいかなければならぬとのことです。

労働力不足については、どこの法人でも人が集まらない状況であり、これからは国全体で労働力がもつと不足していきます。現在、高齢者の分野では、老人ホームを作つても働き手がおらず、開店休業状態となつてゐるところもあり、そのうち障害者の分野でもこのようなことが起きるのではないかと危惧されており、これからは人口減少のため、新卒も減つていくばかりであるため、人材の確保には定年後の元気なシニアの獲得や転職希望者に障害福祉に目を向けて

第14回自立支援セミナー2018

— これからの社会、これからの障害者支援 —

於・千葉市民会館



第68号 (二〇一八年三月号)

発行日 平成三十(二〇一八)年三月二十日

発行者 里見吉英

編集者

畠山正昭・菅谷大輔・秋山直樹

発行所

千葉県知的障害者福祉協会

(本部) 千葉市中央区中央四一四一ー〇 友美ビル二一二〇

Tel 〇四三一(二二四)五七二一
HP <http://www.chibachiteki.com/>

(事務局) 船橋市金堀町四九九一 大久保学園内
Tel 〇四七(四五七)二四六一

目次

- 第14回自立支援セミナー2018 ① ③
- 新事業紹介 ④ ⑤
- わが施設の自慢・アピールポイント ⑥
- 第45回手つなぐ作品展 ⑦
- 千葉知協トピックス ⑧
- 事務局便り・編集後記 ⑨

もらえるような方策を考えてみてはどうかと話されていました。

これから社会については、高齢化と人口減少があり、人口減少について2025年には間64万人の人口が減り、もつとも人口の多い団塊世代が75歳を迎える年で、ここが入り口で現役世代は減っていきます。人口減少や働き手不足により、地方が衰退してしまうことが予想されますが、現在、地方の社会福祉法人が意外と雇用を創出したり、新たなビジネスを生み出したり、地場産業を支える役割を果たしているところもあり、地方にとつて大きな役割を社会福祉法人が担つていき、コミュニティの再生にも貢献できるのではないかとのことでした。

最後に、生きにくい人たちを支援していくのは誰なのか、どこにその資源があるのか、それは知的障害者や自閉症の人たちを支援しているみなさんこそが私は一番大きな資源だと確信めいたものを持っており、強度行動障害を受け止めてどんな人生も諦めず真剣勝負で働いている人たちであります。絶対、日本の社会が必要とするリーダーとしての役割が出ていて、自分の仕事にプライドを持つていただきたい。

千葉あいご



鼎談

「これからの障害福祉の課題」

内閣総理大臣補佐官
毎日新聞論説委員

千葉県知的障害者福祉協会会長
野沢 和弘 氏
里見 吉英 氏

これから障害福祉の課題をテーマに野沢氏、里見氏による鼎談が行われました。

〈今回の報酬改定の評価や分析について〉



衛藤氏～今回の改定の中で食事提供体制加算が継続できることは良かったと感じています。施設については大型の入所施設から地域で暮らす、自立と共生の考え方での社会づくりに、この20年間努めてまいりました。親亡き後、安心できるよう大型入所施設ではなく地域型の小規模入所、地域としての拠点事業ができるよう、また、地域で暮らす方々の重度化、親の高齢化などさまざまな問題に対応するために地域生活支援拠点の機能強化を進めるための仕組づくりを行つてまいりました。

里見氏～まず、グループホームの問題について、今まで空き家を使用して展開できたが高齢者グループホームの火災が起つてから、消防法など厳しくなり、スプリンクラー設置などでグループホーム建設等に相当の費用がかかり、建てづらくなつてるので規制を緩和していただきたいです。

入所施設について否定されているが、高齢者には特別養護老人ホームは増えているのに、なぜ知的障害者はグループホームなのか、看護師もおり環境が整つた入所施設の良さがあり、必要なと思うし、実際に入所待ちの方が沢山いる状況であります。意思決定支援の観点から本人のためを思い、親御さんが入所施設の生活を望むのであれば入所施設で応えていくべきであります。

野沢氏～今回の改定のポイントは、新たなサービスとして重度、高齢化対応のグループホームがつくられ、これは日中もグループホームで過ごすような介護保険されました。

衛藤氏～かつての大規模入所施設のような隔離型の入所施設ではなく、40名ぐらいの規模で地域と交流ができ、重度化や親の高齢などに対応していく地域型の入所施設や地域型の小規模入所をグループホーム定員20名と短期入所5名のモデル事業を経て予算化され、今後、基

盤整備を図つていき対応していただきたいと思います。

野沢氏～地域資源がまだ足りないと思うので地域資源を増やし選択肢を増やしていく

てから、それでも入所施設が必要であるかを考えてもよいのではないかと思いま

企業はうまみを感じて、参入している状況がみられ、そういう局面になつてきているため、悪い所は排除していくような仕組みを検討していく必要があ

ります。

里見氏～

福祉業界の評価については、日中活動の内容や入浴の実施状況、施設が清潔であつたり、保護者、地域との交流ができるいるかなど、そのようなスケールで評価できるのではないか、また、協会では研修制度が充実しており、1か月に2回くらいの割合で実施しており、この研修に職員を出してきてる法人は問題ないと思われます。

野沢氏～

業界団体の福祉協会による自主的な規律は必要ではないかと思います。利用者が選びづらい業界なので、協会への加入が最低限の質を担保できてる事業所とすれば利用者が選びやすくなるのではないかと思います。

里見氏～人材不足について

なかなか人が集まらない状況であり、給料、待遇など実際は悪くないが福祉について良くないイメージがあるのではないかと思います。特に待遇改善加算のネーミングは待遇が悪いと思われるため、キャリア加算など希望の持てるものにしていただけるとよいと思います。特にイメージ戦略が必要だと思います。

野沢氏～

障害福祉のイメージを変えることは本当に大事であります。障害福祉を魅力的にして、良い人材がどんどん入ってくるような、そんな世界にしていきたいと思います。それが、これから障害福祉であります。

衛藤氏～

と述べられ締めくくられました。障害福祉の課題として、地域での暮らし方や重度化、高齢化、人材確保など様々ありますが、障害を有する方が、その人らしく暮らせる社会を目指して、社会全体で出来ることから取り組んでいけたら良いと考えます。以上報告いた

野沢氏～制度を上手く利用する人がおり、また、雇用については、本当に来て障害者が働いているか、名簿上だけになつていいのか、実態調査を行つて改善していくべきだと思います。グループホームと生活介護の併用については、今からやれるところを検討していくべきだと思います。これまししたら教えていただきたいと思います。

野沢氏～人材確保はすごいシビアになるので福祉人材確保法みたいなものを作つてはどうかと思います。これからの社会を

千葉県知的障害者福祉協会 平成29年度施設長研修会

於・鴨川グランドホテル

平成29年12月18日(月)～19日(火)の日程で、鴨川グランドホテルにおいて、千葉県知的障害者福祉協会が主催する「平成29年度施設長研修会」が開催され、当日は170名を超える参加者が集まり、同研修会への関心の高さがうかがえました。

1日目

研修会の冒頭、千葉県知的障害者福祉協会会长の里見吉英氏から

挨拶があり、7月に980名の参加者を集め、盛況の内に閉幕した「2017年度 関東地区知的障害関係職員研究大会(千葉大会)」で、県内の施設、事業所からの協力に対し謝意が伝えられました。その後、この研修会開催直前に公表された、平成30年度障害福祉サービス等報酬改定において、プラス0・47%であったことと触れられ、まずは安堵すべき内容であったものの、今後の議論を注視し、事業毎に偏りのある報酬体系についても、是正の必要性を訴える事が重要との話がありました。また、千葉県への予算要望の検討段階で浮かび上がった、千葉県社会福祉事業団が運営する袖ヶ浦福祉センターの人員配置の分析結果について、同規模の民間施設の最大配置と比較した場合、120名程度多く配置され、センター全体の運営に係る予算是年間約7億円、今後5年間(指定期間)で35億円に上るとされ、単純比較はできないものの、協会としても議論を重ねる中で、千葉県とも調整をしていく必要があるとの見解が示されました。最後に、2019年8月に関東地区で開催予定の全国グループホーム大会において、千葉県に開催要請があり、受諾の方向で検討していました。

講演1 「ズバリ! どうなる報酬改定?



(公財) 日本知的障害者福祉協会政策委員会 副委員長
社会福祉法人彩明会 理事長 白石 孝之 氏

講演1では、この度の改定議論において、日本知的障害者福祉協会としての意見の取りまとめや調整の中心的役割を担つた同氏から、これまでの議論の経過や内容について説明がありました。

今回の報酬改定における議論は、膨らみ続ける社会保障費の抑制の一環として、予算規模の大きくなつた障害福祉予算も厳しい状況であったとの説明がありました。議論は5月に設置された障害福祉サービス等報酬改定検討チームにより進められ、47の関係団体ヒヤリングとして、第一を「障害福祉サービスを担う人材の確保及び定着について」とし、一般企業との給与格差を是正するため、待遇改善加算等による更なる給与改善を求める意見述べました。また、

講演2 「千葉県の障害福祉はここを目指す



千葉県健康福祉部障害福祉事業課

課長 岡田 慎太郎 氏

講演2では岡田氏から、最初に第六次千葉県障害者計画案(案)の概要の説明がありました。この計画の目標は「障害のある人が地域でその

所の適正な評価について」では、就労支援事業所の目標工賃達成加算要件の撤廃と、高工賃の事業所の評価を主張しました。「障害児に対する専門的で多様な支援について」では、医療的ケア、重度重複障害等のある児童への個別対応をした場合の評価を求めました。「質の高いサービスを持続的に利用できるようにするための相談支援の拡充について」は、相談支援事業の質の確保と安定運営に向けた報酬上の評価、新規利用者や個別のケースに対応するための新たな加算の創設などを訴えました。

その後、新たなサービスの創設として、一人暮らしを希望する障害者へのサービスとなる「自立生活援助」と、高齢障害者の介護保険サービス、就労定着に向けた支援を行う「就労定着支援」について、これまでの検討チームによる議論の中で示された中身についての説明がありました。最後に、今後の3つのキーワードとして、「メリハリ」(福祉の本質と成果主義のバランス)、「小さな地域単位での柔軟な取組み」(基幹センターや地域生活支援拠点等の役割)、「種別を横断した支援」(共生型サービス、我が事丸ごと)を挙げられ、これまで積み上げてきた実践と専門性を踏まえつつ、新たな時代のニーズに対応していくことが重要な話で締められました。

人らしく暮らせる共生社会の構築」で、期間は平成30年度から平成32年度までとなっています。主要施策の内容について「入所施設等から地域生活への移行の推進として」では、千葉県内で生活の場を求める待機者は、705名に上るとされ、グループホームの定員の次期目標を590人とし、施設入所者数の数値目標は、袖ヶ浦福祉センターの入所者のみを対象に減員しているとの説明がありました。「障害のある人の相談支援体制の充実」では、地域において基幹相談支援センターを中心とした包括的な相談支援体制の構築を目指す観点から、委託相談事業所や中核地域生活支援センター等との役割分担の明確化や、矯正施設からの出所者に対する支援も、地域定着センター等との連携により円滑に進めていくとのことでした。「障害のある人の一般就労の促進と福祉的就労の充実」では、平成30年度から法定雇用率が2・2%に引き上げられることから、障害者就業生活支援センターを中心として、障害者の就業、職業生活と地域生活の向上を図り、就労継続A型事業所の運営については、千葉県障害者就業事業振興センターと連携した指導体制の強化を図り、サービスの質の向上を目指すとの事でした。

次に平成30年度予算等要望書に対する回答として、冒頭で国全体の財政状況を踏まえ、千葉県では公共事業においても新規の予算措置は困難であり、県単独加算等による要望もあるものの、恒久的な予算措置を求める観点では、国とおいても同様の考え方であるとの説明がありました。その上で、平成28年度の障害福祉関係2課の予算是449億円で、袖ヶ浦福祉センターの運営予算も含まれており、これは、この度の共通要望でも挙げられている、千葉県として考える袖ヶ浦福祉センターの入所者定員と補助額の適正な数値の設定という観点においても、多

く配置されている職員数（民間と比較して）という指摘も含めて十分に検討していくとの返答でした。

今回の研修1日目は、報酬・制度改定や福祉計画といった、今後の障害福祉サービスの方向性を考える機会となりましたが、少子高齢化による人口減といった日本の直面する課題が重くのしかかることも改めて感じました。それでも、目の前にいる利用者の方々の笑顔と幸せを追求し、積み上げていくことが大切だと思いました。

社会福祉法人九曜会たかね園
管理者 辰巳 陽治

2日目

講演1 「決算三表を読み解く方法」



2日目は、「決算三表を読み解く方法」と題して、坂本会計事務所の坂本、中村両氏より講演していただきました。法人の財政状態をつかむ「貸借対照表」では、純資産の割合が社会福祉法人の場合、40%強あれば順調（安定した）な運営が成されており、負債が資産を超えているような場合だと危篤状態に陥ってしまうこと、資金の増加と減少理由を把握する「資金収支計算書」では、資金収支計算書の当期末支払資金残高と、貸借対照表における当期末の流動資産からの流動負債を引いた数値は一致すること、法人の経営成績をみる「事業活動計算書」では、事業活動計算書と貸借対照表の次期繰越活動増減差額の数値は一致すること等、着眼点についての説明を受けました。

社会福祉法人でも倒産する時代においては、一定の収益性がないと、事業の継続 자체が困難になります。収入は単価と数量であり、定員×

稼働率（利用率）が重要になります。もちろん報酬単価は気になるところですが、まずは稼働率を上げるということが収益の安定性に繋がることは言うまでもありません。

同業他法人との比較と言う観点からも、決算書の分析は必須項目であり、平均的な施設、競合する施設、目標とする施設等、比較対象とする施設を身近な施設から選択するのがポイントで、平成30年4月1日から開始される、障害福祉サービスの情報公開制度により、他法人の情報は得やすくなるため、効率的・効果的なデータの収集に努める必要があります。



講演2 「写真が語る命のバトンリレー」

2日目最後は「写真が語る命のバトンリレー」と題して、写真家であり、ジャーナリストの国森康弘氏の講演をお聞きしました。国森氏は2011年3月11日、滋賀県で在宅医療の取材中、つけ放しのテレビから東日本大震災の惨状を目撃の当たりにし、その日のうちに車を走らせ車内泊をしながら北上を続けたそうです。

被災地での「悲しい死」を数多く取材するにつれて、看取りや在宅医療の現場では「あたたかい死」もシャッターに收めながら、命は有限でありながらもその死に際して、残る者に生命力と心、愛情という命のバトンを手渡し得ることを、数々のエピソードと写真スライドを通して私たちに語りかけていただきました。

「誰もが住み慣れた地域で安心して暮らせることが」を目指す、私たち福祉関係者においても、老い、死、いのちについて、改めて見つめ直し、また考えさせられる機会となりました。

社会福祉法人心聖会小池更生園

施設長 吉村 優児

新事業所紹介

おおはし園

特別支援学校卒業生の受け皿として

当法人は、これまで2つの障害者支援施設を運営してまいりましたが、この度、北総線「北国分駅」より徒歩15分ほどの松戸市大橋地区にて、法人新規事業となる生活介護事業所を開所し、おかげ様で1年を迎えるとしています。当園の定員は45名となりますが、現在の契約者数は、開所初年度ということもあり、20名とまだまだ受け入れ数に余裕がある状況です。そのため、この定員充足につきましては、次年度以降も松戸市内の特別支援学校卒業生等を計画的に受け入れ、開所後3年間で満員とする予定です。

日中活動の様子につきましては、開所当初は、私共職員と利用者様の信頼関係が構築されていなかったこともあり、しばらくの間は、余暇的



このように、当園は生活介護事業所としては、まだまだヨコヨコ歩きの状況ですが、利用者様が毎日笑顔で、そして安心して利用していただけるよう、より一層のサービス向上に努めて参る所存ですので、何卒、よろしくご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

社会福祉法人南台五光福祉協会

おおはし園 管理者 三 浦 健

みらい工房だいち

地域と共にみんなのみらいを創造する

平成27年2月1日より、千葉市中央区赤井町に定員20名の生活介護事業所「みらい工房だいち」が開所致しました。赤井町での開所から早3年。たくさんの方々からご利用頂き、現在では生活介護事業定員40名、放課後等デイサービス定員10名となっております。

ご利用される方は知的に障がいをお持ちの方がほとんどですが、身体に障がいをお持ちの方



も多数ご利用されています。広い作業スペース、特殊浴槽を設置するなどし、身体的に障がいをお持ちの方でも過ごしやすい環境を提供できるよう配慮しています。

活動は主に木工製品の作製、敷地内花壇の手入れ、農作業を行つております。木工製品の作製ですが、現在は比較的小さな作品として鍋敷き、プランター置き等を作製しています。また、ウッドクリップやマグネット等の小物も作製し、地域のバザーや販売行事に参加させて頂き出品しております。最近ではミニサボテンや多肉植物を、手作りのリメイク缶鉢に植え替える活動も始めました。今後はベンチ等大きな作品作りにも利用者様と共に挑戦し、作品販売を通じ達成感を味わつたり、地域社会とのつながり等を実感して頂けるよう支援に取り組んでいきたいと思います。

みらい工房の基本理念である、「地域と共にみんなのみらいを創造する」これを忘ることなく地域とのつながりを大切にし、皆様に少しでも寄り添う事ができるよう職員一同努力していきたいと思います。

支援スタッフ
から見た!

わが施設の自慢・アピールポイント⑥

平成20年度から25回にわたり71の“プチ自慢”をご紹介してきましたこのコーナー。今回は2つの“プチ自慢”です!

いすみ・長生ブロック…いすみ学園 風川美術館

「利用者の多様化するニーズに応える」

いすみ学園の利用者は、生産活動を通じて社会に生きる活動を続けています。

又、余暇として、土曜日にはクラブ活動に興じ、その他にもボランティア等の協力を得た余暇活動も色々とあります。今回は、その一つを紹介いたします。

毎月一度、K先生（画家）が来園し、学園の「風川美術館」で希望する利用者を集めての「絵画教室」で、もう4年以上続いている。

利用者は思い思いで描き、とても満足した表情で過ごしています。

この美術館は、平成24年に利用者の多様化するニーズに応



絵画教室



風川美術館外観

える場として建設したもので、出土遺跡品と合わせて利用者の作品を常設展示しています。

「桜」か「紫陽花」の頃にお立ち寄りいただければ、その景観も合わせて楽しめます。お気軽にお越しください。

施設長 秋本 泰司

印旛・山武ブロック…いんば学舎・オソロク倶楽部…森のアトリエ

「作品を通してコミュニケーション」

いんば学舎・オソロク倶楽部のピザレストランの隣に小さなかわいいらしい建物があるのをご存知ですか。これが平成25年秋に開設した「森のアトリエ」です。ここには利用者の皆さんのが創作した絵画やオブジェ等の様々な作品が展示されています。

いずれの作品からも誰も真似ることが出来ない、強烈な個性を持った独自の世界観が存在していることが感じられます。専門的な美術教育を受けた経験が無いにもかかわらず不思議な魅力を放つ、すぐ身近にいる優れた表現者たちの唯一無二の作品です。

彼らが何を考え、何を感じながら毎日を過ごしているのか



利用者さんの作品



森のアトリエ外観

を知る良い機会になると思います。作品を通してコミュニケーションしてみてはいかがでしょうか。

入場無料 開館時間11:00～15:30（日曜定休）

就労支援員 松本 知大



南部地区

イオンモール富津店にて2月22日(木)から25日(日)まで開催されました。売上は113万円と昨年よりも減少しましたが、多くのお客様に来店して頂いた



中野学園 西山 克也

ことでの、開催目的である知的障害者への理解と関心を持っていました。最後に毎年会場を提供していただけるイオンモール富津様をはじめ各施設関係者の協力に紙面ではありますが御礼申し上げます。

中部地区

平成30年2月16日(金)～19日(月)に中部地区の作品展を開催しました。今回市原市の「ニニモちはら台」の協力を得て開催することが出来ました。各事業所の活動の中で作られた気持ちのこもった作品の数々が持ち寄られ、展示・販売という形で、来場された皆様の手に届きました。90万を超す売り上げとなり、利用者の日々の活動が評価されたものと感じております。こういった機会を通して「ハンディのある方の可能性を形に表現すること」の大切さを感じます。「互いに協力することで出来上がるひとつ」運営者としては、「これから社会の在り方かなあ」となんて思いながら、いかによく見てもらえるか考えた4日間でした。また次回を期待してもらえるような結果になつていれば幸いです。

第45回 手つなぎ作品展

千葉知協トピックス

スポーツ文化委員会 藤崎 明

第21回 千葉ゆうあいピック駅伝



8-1 安西選手、6-1岩田選手～県総合SCで

平成30年2月4日(日)、第21回千葉ゆうあいピック駅伝(千葉県知的障害者陸上競技協会等主催、本協会等後援)が千葉県総合スポーツセンター陸上競技場で開催され、64チーム293名の選手が健脚を競いました。

男子のメイン種目、ハーフの部(6区間、21km)では、花の第1区に全国障害者スポーツ大会(パラ国体)千葉県代表のひかりACの安西選手と同じく県代表のワンズの岩田選手2人がスタートから激しいトップ争いを繰り広げる熱したレースとなりました。区間後半から、2017年ID部門1500mで国内無敵だった

安西選手が抜けだし、区間賞を獲得しました。

2区に先頭でた

すきを引き継いだひかりACで

だひかりACで

したが、選手層

の厚いワンズが

2区河村拓海選

手の快走で逆転

で先頭に立つと、

その後は安定し

た戦いぶりを見

せ、優勝を果たしました。第2位はダイバーシティ。第3位は流山高等学園でした。その他の

主要な上位の成績は次の通り。



最優秀賞 青松学園～舞台発表

平成29年12月7日(火)、千葉県文化会館(千葉市中央区)にてさわやか芸能発表会を開催しました。今年で26回目を数え、伝統ある発表会となりました。

舞台発表では、例年より2団体多い14団体が出演し、舞台発表で最優秀賞を争いました。出演団体はワーケ幕張(楽器演奏)、市原市三和福祉作業所(ダンス)、小池更生園(ダンス)、袖ヶ浦学園(合唱)、菜の花会アーバンド(ダンス)、ディーダイエイ(ダンス)、オーラブハウス(ダンス)、小金わかば苑(ダンス)で

編集後記

くすのき苑 秋山 直樹

この編集に携わらせていただいた1年。見えていたかづたものが見え、知った1年でした。視野が広がることの心地よさ。来年度も感じていこう。

事務局便り

事務局長 千日 清

年度末と新年度の両面に向けた業務。
29年度のご協力に感謝、30年度どうぞ宜しくお願ひいたします。

チームパシュート日本の隊列を思い起しながら、一丸となつたゴールとスタートを目指したい。



最優秀賞 聖家族園～展示発表

い・さくさべ
(ダンス)、第2
ンス・演劇)、
ひかり学園(ダ
市川レンコンの
八街わらの里
器演奏)、青松
会(ダンス、樂
手話朗誦)、青
空共同組合(ダンス)、千原厚生園(ダンス)
の皆様でした。いずれも練習を十分に積んだハイレベルな競演となり、厳正な審査の結果、ダンスを発表した青松学園が見事、最優秀賞を獲得しました。

一方、展示部門では11団体が出品しました。年々レベルが上がっているのは展示部門も同様で、審査員の皆様をかなり悩ませたようでした。その中で、聖家族園が最優秀賞を獲得しました。次回は本年12月4日(火)開催です。千葉県文化会館でまたお会いしましょう。